

第 2 章

課題研究

1 課題研究について

(1) テーマと目的

テーマ「キャリア教育における協同学習を活用した授業実践」

1年次では、卒業後の生徒が直面する可能性が高い課題解決を図るために、意図的に授業に協同学習を取り入れて、課題解決へ向けた指導法を検討するという目的で、全員が協同学習取り入れた授業を行うという取り組みを行った。その結果、生徒同士の関わりが増え、コミュニケーションが増えるという成果が表れた。その一方、生徒の実態差により理解力や行動力のある生徒が主導しやすくなり、活動に時間がかかる生徒が受け身で学習するようになるという課題が明らかとなった。また、教員側からは、協同学習の理解が難しく、授業にどのように取り入れてよいかかわからないという声も多数挙がっていた。

このことから、協同学習の5つの要素や協同学習スキル、配慮事項などをまとめた「協同学習授業マニュアル」を作成した。2年次では、協同学習授業マニュアルを基に、各教科・形態に適した協同学習の取り入れ方の検討及び課題解決に向けた指導法を検討するという目的で研究を行う。

(2) 仮説

協同学習の5つの要素を盛り込んだ授業を行うことで、生徒自らコミュニケーションを取りながら、課題を解決する力をつけ、キャリア発達を進めることができるのではないかと。

(3) 研究の方法

① 2年次の日程

2年次の具体的な推進日程は、表1のとおりである。

表1 課題研究2年次の具体的な推進日程

日 程	内 容
5月6日(金)	○全体研修① 「第7次研究課題研究・プロジェクト研究、調査研究・寄宿舎研究提案」 ○グループ研究打ち合わせ①(締め切り:5月6日)
6月10日(金)～11月30日(水) 全員授業研究	
7月22日(金)	○グループ研究打ち合わせ②締め切り
9月28日(水)	○グループ研究打ち合わせ③締め切り
10月28日(金)	○全体研修②「中間報告」
11月25日(金)	○グループ研究打ち合わせ④締め切り
1月25日(水)	○グループ研究打ち合わせ⑤締め切り ○振り返りレポート締め切り
2月10日(金)	○全体研修③ 「2年次のまとめ」

② 個人研究について

ア 全員授業研究

全員授業研究は、通常受け持っている授業等を考慮し、各教科・形態に担当を振り分け、授業を行った(表2)。授業は、様式を統一した略案(別紙1)を用いるものと細案(別紙2)を用いるものがある。

・略案を用いた授業研究

- ・6月1日（水）～11月30日（水）を実施期間とする。実施期間内で、任意の日に実施する。
- ・授業実施前日までに略案を作成し、データをローカルの所定のフォルダに入れる。
- ・授業者が略案を印刷し、職員室に配布する。
- ・各学年2名ずつ、参観者を出す。
- ・授業参観後、参観者はアンケートを研修部に提出する。
- ・授業者は、研修部からアンケートをまとめたものをもらう。
- ・授業者は、アンケートを基に振り返りレポートを作成する。

・細案を用いた授業研究

- ・6月1日（水）～11月30日（水）を実施期間とする。実施期間内で、任意の日に実施する。
- ・授業実施1週間までに細案を作成し、研修部に提出する。
- ・研修部が細案を確認後、決裁を上げる。
- ・研修部が細案を印刷し、職員室に配布する。
- ・各学年2名ずつ、参観者を出す。
- ・授業終了後、放課後に協議会を行う。
- ・協議会終了後、参観者はアンケートを研修部に提出する。
- ・授業者は、研修部からアンケートをまとめたものをもらう。
- ・授業者は、アンケートを基に振り返りレポートを作成する。

イ 参観者アンケート

授業研究を行う際は、各学年から2名ずつ参観者を選出した。参観者の選出は、研修部で行い、参観する回数が偏らないように配慮した。参観者は、参観者アンケート（別紙3）に授業を参観した感想や協同学習についての評価を記入し、研修部に提出した。集約したアンケートは、記入者が特定されないように、研修部でまとめ授業者へ配布した。

ウ 振り返りレポート

授業者は、研修部から受け取った参観者アンケートを基に振り返りレポート（別紙4）を作成した。振り返りレポートには、協同学習を取り入れたことへの成果と反省と、授業全体を通しての成果と反省について振り返り、作成した。

③ グループ研究について

グループ研究では、各授業・形態でグループになり（表2）、協同学習の5つの要素を取り入れた授業方法について話し合う研究を5回行った。グループ研究は、5月、7月、9月、11月、1月に行い、日々の授業で協同学習を取り入れたことやこれから取り入れることができることなどの意見を出し、成果と反省、解決策などを話し合い、グループ研究様式（別紙5）に記入した。

以下、略案授業研究様式、細案授業研究様式、参観者アンケート、振り返りレポート、グループ研究様式を掲載する。

単元・題材名		生徒	
		場所	
日時	平成 年 月 日 () 校時	指導者	
単元の全体目標			
本時の目標			

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 〇分	前時の復習 本時のめあてと 課題		<p>○前時の復習をする。</p> <p>○本時のめあてと課題を提示する。</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p>	
展開 〇〇分	学習ポイントの 確認		<p>○協同学習のポイントを確認する。(④)</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p>	
	課題に対する発 問 生徒の発表		<p>○課題に対する考え方や答えを考えるように発問する。</p> <p>○生徒から質問や考えを引き出す。</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p>	
	教師による説明		<p>○教科書、具体物、示範などにより説明する。</p>	
	協同学習		<p>○ペアやグループで互いに説明するように伝える。(②③④)</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p> <p>○互いに教え合うように伝える。(②④)</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p>	

	応用・発展		<p>○応用・発展的問題に取り組ませる。</p> <p>○生徒による問題作りができるように導く。(④)</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p>	
整理 〇〇分	まとめ・ 振り返り		<p>○「分かったこと」と「分からないこと」を明確化させる。</p> <p>○生徒同士で相互評価させる。(コメント)(⑤)</p> <p><協同学習の要素や配慮事項></p> <p>○教師による評価(個別・全体)</p> <p>○次時のめあてや課題を知る。</p>	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、「〇互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係、 (②) … 対面的なやり取り、 (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑰) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

○学年 ○○「○○○○○○」学習指導案

(別紙2)

月 日 平成○年○月○日 (○)
 場 所
 時 間 ○○:○○ ~ ○○:○○
 対 象 ○学年
 指導者 T1 ○○○○
 T2 ○○○○

1 単元名 『・・・・・・・・・・・・・・・・』

1 題材名 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

2 生徒の実態

- ・生徒の発達の様子、障害の程度。
- ・単元指導前の生徒の実態や課題。

項目1と3について。
 生単では単元を組むので、「単元名」に
 国語や数学などの教科なら「題材名」に
 なることが多いだろう。作業なら、「題
 材名」だろう。取り組む授業によって、
 「単元名」か「題材名」かを選ぶこと
 になる。

3 単元について

- ・単元そのものの説明。この単元を学ぶことにより、生徒にどのような変容が期待されるのか。そのために、どのような内容を用意してするか。
- ・そして、本事ではどういう目的で、どのような内容で、どこに注意して行うのか。

3 題材について

4 単元の全体目標

- ・
- ・
- ・

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標	使用教材
1	平成28年 6月9日(水) 1,2校時	・職業について	・身近な職業について調べることができる。 ・それぞれの仕事の特徴をまとめることができる。	学習プリント①② ワークシート パソコン
2	平成28年 6月14日(火) 2,3,4校時	・職種と業種について	・職種と業種について調べることができる。 ・グループごとに壁新聞にまとめることができる。	学習プリント③ ワークシート パソコン
3	平成28年 6月16日(水) 1,2校時	展開上の配慮点、指導方法での工夫点 などを書く		学習プリント③ ワークシート
4 本時	平成28年 6月21日(火) 2,3,4校時	・壁新聞の作成	・ペアやグループごとに記事をまとめることができ る。 ・全員で一枚の壁新聞を完成することができる。	学習プリント④ 模造紙 ペン

5	平成 28 年 6 月 23 日 (水) 1,2 校時	・プレゼンテーション ・評価	・グループごとに壁新聞の内容を発表することができる。 ・他のグループの良いところ・改善すべきところについて評価することができる。	壁新聞 評価シート
---	--------------------------------	-------------------	---	--------------

これは例。
単元指導計画などを参考に、本時の前後の計画をまとめを書く。または別紙で単元指導計画を添付し、ここは省略してもよい。

6 本時の全体目標

- ・
- ・

今日の授業全体の目標・ねらいを考えて書く。
2つ程度でしょう。

7 本時の展開

(1) 個別目標

ここは空欄にしておく

名前	単元目標	本活動に対する実態	本時の目標	手だて	評価
A		特に目標に対する実態を肯定的に表記する		本時の目標に対する指導の手立て	
B	この単元における、生徒の個々の目標 (「～を理解することができる) とか)		今日の授業における、生徒の個々の目標 (「～を理解することができる) とか)		
C	生徒名は、アルファベットにする。				

(2) 協同学習の観点

- ①「互恵的な相互依存関係」 ②「対面的なやりとり」 ③「個人としての責任」
④「協同学習スキル」 ⑤「チームの振り返り」

ここには、「協同学習」場面についての目的と方法について書く。

(3) 本時の展開

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (10分)	挨拶 前時の復習 本時の学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 代表者にあわせて挨拶をする。 ○ 各グループで職業についてまとめること、前時で確認した壁新聞のまとめ方を振り返る。 ○ 調べた職業について壁新聞にまとめることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 代表者を募る。代表以外はあわせるように指示する。 ○ プリントを見返してもよいことを伝え、発言を促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><協同学習の要素や配慮事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでまとめ方を振り返り、発表する。(②) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作成時間と役割分担を伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><協同学習の要素や配慮事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事を書く人、道具の準備をする人などを各グループで決める。(①③) ・グループ内の仲間関係に注意を払う。(配慮⑥) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリント教材 (これまでのもの) ○ プリント (4)1枚目
展開 (20分)	壁新聞にまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協同学習のポイントを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協同学習のポイントを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><協同学習の要素や配慮事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの考えを一つにまとめて表すことができる(④) </div>	○ 模造紙
整理 (20分)	まとめ 次回予告 挨拶	<p>※ 生徒と教師それぞれの動きがわかりやすいようにする</p> <p>※ 導入、展開、整理に分け、要する時間の目安を書く</p> <p>※ 「○」や「・」の位置を揃える</p> <p>※ 教師の活動で、協同学習に関わる活動を設定する際は、協同学習の要素と配慮事項を書く。</p> <p>※ (①～⑤)は、協同学習の5つの要素、(配慮①～⑰)は配慮事項として記入する。配慮事項で新規作成する場合は、(配慮☆)と記入する。(マニュアル参照)</p>		

8 評価

(1) 学習の評価

ア 本時の全体目標は達成されたか。

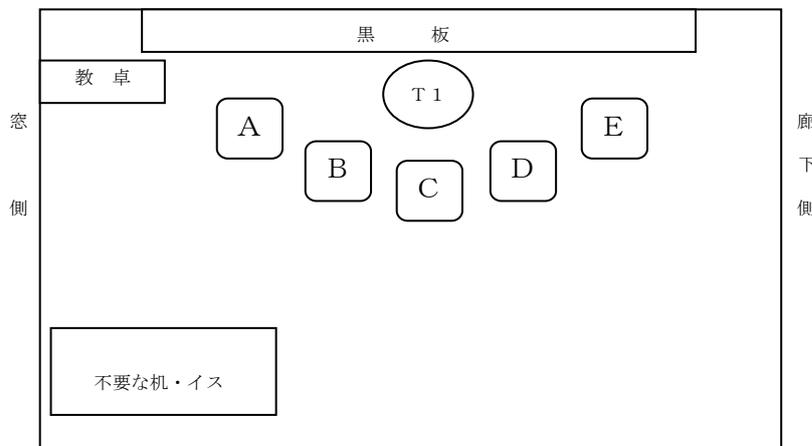
イ 個別目標の評価は達成されたか。

(2) 授業の評価

観 点		評 価			
授業 の 設 計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。				
	② 目標・手立ては明確になっていたか。				
授業 の 展 開	③ 導入・展開・整理の流し方	授業の設計①～④、授業の展開①～④について、すべての項目の評価を書くのではなく、授業者が必要に応じて項目を選択して評価を記入する。 協同学習の反省は、協同学習の要素をもとに、必要な部分の評価する。			
	④ その他				
協 同 学 習	① 「互恵的な相互依存関係」	A	B	C	D
	② 「対面的なやりとり」	A	B	C	D
	③ 「個人としてのの責任」	A	B	C	D
	④ 「協同学習スキル」	A	B	C	D
	⑤ 「チームの振り返り」	A	B	C	D

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

9 配置図



10 資料

- ・ 本時の学習プリント (資料 2)
- ・ 単元指導計画 (資料 4)

授業参観者アンケート

(別紙3)

記入者：	(学年)	授業者：
協同学習（各要素）についての評価		
授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）		

※ 協同学習の5つの要素

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| ①「互恵的な相互依存関係」 | ②「対面的なやりとり」 | ③「個人としての責任」 |
| ④「協同学習スキル」 | ⑤「チームの振り返り」 | |

※ 記入次第、津村先生まで提出をお願いします。

【全員授業研究 振り返りレポート】

(別紙4)

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	総合「壁新聞を作ろう」	生徒	〇〇科〇年生徒〇名
		場所	〇〇科〇年教室
日時	平成28年〇月〇〇日 (〇) 〇校時	授業者	今金 次郎 MT の名前のみ。

教科名

(別紙5)

協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」、「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書いてください。

協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定してください。

協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定して書いてください。

協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを書いてください。

協同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、書いてください。

成果と課題

解決策（解決策の方向性）

表2 各教科・形態のグループ

	1 学年	2 学年	3 学年
国語	渡邊、成田	亀田	海田 山田
数学	村瀬 中島	山柿	石川
音楽・美術	石田	鐘ヶ江	泉谷
体育	高山、後藤	山本 金子	住谷
産業科 作業	田中	小松	初山、穴田
農業科 作業	津村、西脇、近藤	高田、関口 藤倉	小原
生活家庭科 作業	木田、青山	能代、	佐々木、出村
生単・総合	工藤、小林 橘	岩城 祐川、吉本	鈴木、森山 上村、林谷

3 研究の実際

(1) 協同学習授業マニュアル

1年次の研究から協同学習の理解を深める必要があると考察されていたことから、協同学習授業マニュアルの作成を行った(資料1)。マニュアルには、協同学習の5つの要素、略案指導案様式、協同学習スキル、配慮事項、協同学習の進め方などが記載されている。理解が難しいということから具体例や取り入れ方、指導案への記載例などを記載した。また、マニュアルの使用方法について、職員間で共有するために、具体例を用いて説明を行い、共通理解を図った。

(2) 各教科・形態での協同学習の取り入れ方の検討

各教科・形態で担当になった授業者全員が協同学習を取り入れた授業を行った。指導案には、5つの要素をどの部分に取り入れたかをあらかじめ分かりやすく記載するようにし、5つの要素を全て取り入れられるように配慮して授業を行った。また、授業研究を含む日々の授業で協同学習を取り入れた学習方法や実践例などをグループ研究で意見を出し合い、各教科・形態でまとめた。その際には、協同学習の5つの要素の具体例を参考に、活動例を記入できる用紙を用意し、集約した上で文言の整理を行った。

以下、各教科・形態で行った授業研究の指導案、参観者アンケート、振り返りレポート、グループ研究を掲載する。なお、掲載順は、国語、数学、体育、音楽・美術、生活単元学習、産業科作業学習、農業科作業学習、生活家庭科作業学習とする。